



夢★きらめくに

臨時号

加東市／加東市人権・同和教育研究協議会 令和2年12月1日

コロナにやさしいまちづくり



新型コロナウイルスの感染者数が、世界では5,300万人、日本でも11万人を超え（令和2年11月15日現在）、現在も終息の見通しは立っていません。ただ、治療法がわかってきたことなどから、致死率や重症化率は大幅に低下してきています。

しかしながら、感染を機に仕事を失ったり、学校へ行けなくなったりしたケースが、いまだに相次いで報告されていると新聞で報道されています。（10月21日付「神戸新聞」）加えて、兵庫県内では、4月以降、感染者個人の属性情報を非公表にする事例が増えています。

こうした変化の一因に、県疾病対策課は、4月以降の若い感染者の増加を挙げています。高齢者は自らが被害者である意識が強いのに対して、行動範囲の広い40代までの若年層は「会食をしたのが悪い」などと加害者扱いをされるとして非難を恐れる傾向があるとしています。

また、大阪大学の三浦麻子教授らの調査（7～8月）により、日本では他国よりも「新型コロナウイルスに感染するのは自己責任」と考える人が多いことが分かりました。「感染する人は自業自得だと思うか」との質問に、「そう思う」と答えた人の割合がアメリカでは4.9%、イギリスでは1.4%であったのに対し、日本では17.2%にのぼったのです。この結果に三浦教授は「日本では他国よりも感染自体を『本人の責任』と見なし、『被害者たたき』とも呼べる意識が強く見られるのです。」と述べています。

しかし、逆に考えてみると、「そう思う」と答えた人は一部の人に過ぎず、大多数である8割以上の方は「そうは思わない」と答えているのです。三浦教授は続けて、「残り8割以上の方々は『感染は自業自得ではない』ということをより強く意識して、感染者や社会的弱者へのより温かいサポートを心がけていただきたいです。」とも述べています。

与論島発「クラスター（集団感染）その後」



鹿児島県最南端の与論島は、周囲23キロ、人口5,000人余りの小さな島ですが、年間6～7万人の観光客が訪れる島です。

この島で、7月下旬～8月上旬に新型コロナウイルス感染が相次ぎ、55名もの感染者が確認されました。感染者には、飲食店を利用した30～60代に多いことや、医療従事者から入院患者と面会者に広がったこ

とが特徴として挙げられました。感染の要因は、会食時の与論島伝統の回し飲みや、グループで複数の飲食店を利用したこと、医療従事者が発症後も勤務を続けたことでした。県は自衛隊に要請し、ヘリなどで島外へ感染者の移送を行いました。

その1か月後の様子を新聞記事から紹介します。

与論島のクラスター（集団感染）発生から1か月。島では、日常を取り戻しつつあった。一方、感染者への誹謗中傷や差別的な扱いは大きな問題となっていない。

40代の女性会社員は、「職場や近所の人『おかげさまで。元気になってよかったね』と声をかけてくれる」と喜びをかみしめる。島の観光業の女性は、「小さな島では自分がいつ感染してもおかしくなかった。死者も出ず、みんな元気に帰ってくるのが何よりうれしかった」と語る。
(8月22日付「南日本新聞」)

与論島の宿泊施設や役場に、島外の出身者や全国の与論ファンからマスクや消毒液などの支援物資が続々と届いている。「元気を出して」「落ち着いたら与論に帰ってくるね」などと書かれた手紙も添えられ、経済活動再開と感染予防の両立を目指す住民を励ましている。

民宿を営む林さんは、「コロナで誰もが大変なはずなのに、こんなに支援してもらい涙が出そう」と山積みになった物資の前で手を合わせた。

(8月31日付「南日本新聞」)

愛媛発「シトラスリボンプロジェクト」

コロナ禍で生まれた差別や偏見を耳にした愛媛県松山市の有志がつくったプロジェクトです。

愛媛特産の柑橘（みかん類）にちなみ、シトラス色（柑橘をイメージ）のカラーリボンを身につけて「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンの3つの輪は、「地域」「家庭」「職場（または学校）」を表しています。

今や、どこにいても、何をしても、いつだって、だれだって感染のリスクはゼロではありません。感染拡大を防ぐためにはさらなる行動変容が必要となると同時に、「誰もが少しでも心のびやかに暮らせるようなまちのあり方」が今こそ問われています。

ウイルスの感染拡大阻止は、もちろん大事です。経済対策も大事です。でももう一つ、忘れてはならないことは、たとえウイルスに感染してしまっても、地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるということの大切さです。

「ただいま」「おかえり」。お互いにそんなふう言いあえる、受け止める空気であってこそ、安心・安全が守られるまちなのだと思います。わたしたちの暮らしを守るために日々奮闘しておられる方々への感謝もこめて、「ただいま」「おかえり」って言いあえるひとの輪を広げませんか。

ただいま、おかえりって
言いあえるまちに

みんなで広げよう、
シトラスリボンプロジェクト。

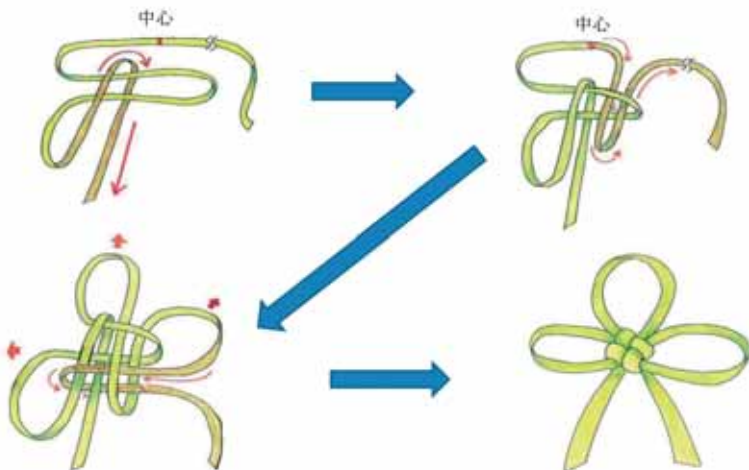


Citrus
Ribbon
PROJECT

from ehime

シトラスリボンをつくってみましょう

- シトラスカラーをイメージした色のリボン（紐）45cmを準備します。
（長さによって輪の大きさが変わってきます）
- 下の図のようにリボン（紐）を順番に入れていき、最後に3つの輪を外側に引き整えて、できあがりです。

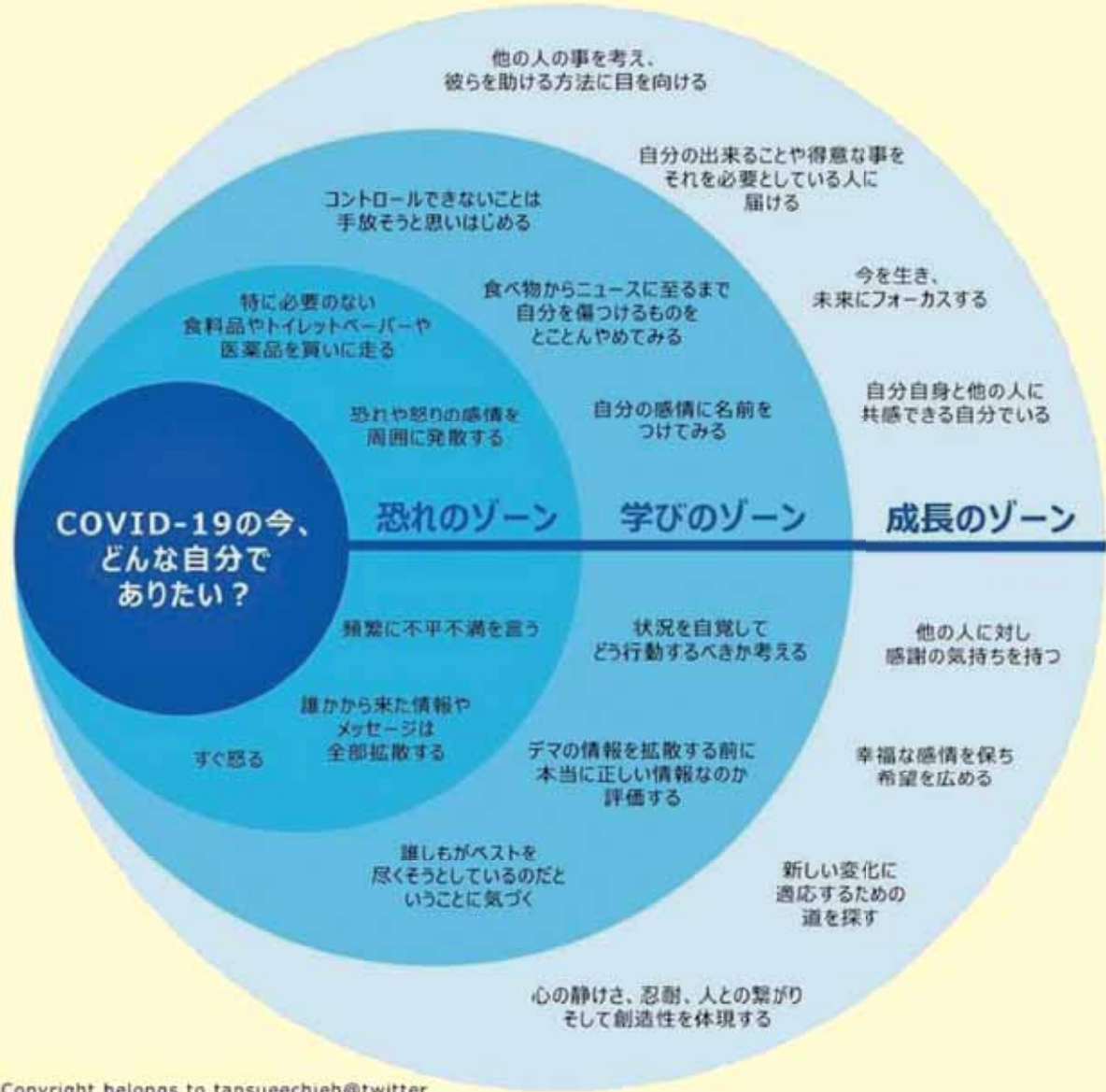


ホームページに作り方の動画が
紹介されています



シトラスリボンプロジェクトのホームページ
<https://citrus-ribbon.com/>

誰もが安心して暮らすことができる社会は、誰もの願いです。
 与論島や愛媛県のような“心地よいまち”のあり方について考えてみませんか。また、
 そのために“自分は今、どのゾーンにいるのか”を振り返ってみてはどうでしょうか。



発行
 加東市
 加東市人権・同和教育研究協議会

◇人権に関する悩みごとの相談先◇

差別、いじめ、いやがらせなど、人権に関する問題でお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

電話で相談

- みんなの人権110番 ☎0570-003-110
- 子どもの人権110番 ☎0120-007-110
- 女性の人権ホットライン ☎0570-070-810
【以上 平日8:30~17:15】
- 外国人権相談ダイヤル ☎0570-090-911 【平日9:00~17:00】
(Human Rights counseling in foreign languages)
- 24時間子供SOSダイヤル ☎0120-0-78310
- 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会 ☎078-242-5355 【平日9:00~17:00】
- 加東市人権協働課 ☎0795-43-0544 【平日8:30~17:15】

面接で相談

- 法務局の常設相談 【平日8:30~17:15】
法務局職員もしくは人権擁護委員が相談を受けています。
神戸地方法務局社支局 ☎0795-42-0201
- 人権相談 【10:00~11:30】
相談員は人権擁護委員です。
・第2金曜日 はびねず滝野
・第3金曜日 社福祉センター
・第4金曜日 東条公民館（とどろき荘2階）
- 窪田隣保館人権相談 【毎週水曜日の14:00~16:00】
相談員は人権教育推進員です。

〒673-1493
 兵庫県加東市社50
 TEL 0795-430544
 FAX 0795-421735